

集団絶滅は 10 倍も控えめに報告されている

July 5, 2014

Dane Wigington



「集団絶滅」というような言葉は、誰も聞きたくない言葉である。ほとんどの人々は、これは見出しにするために統計を誇張した、何らかの“警告家”的な言い方だろうと想像する。もし現実の統計結果が、研究報告より 10 倍も進んだ実態を指しているとしたらどうか？ 実はそれこそ我々の直面している現実である。そしてそれは目もくらむようなスピードで臨界に達しつつある。地球は、毎日、一日に 200+ の植物・動物種を失っている。これがあとどれくらい続くだろうか？



(国連調査による種の絶滅数)

非常に多くの人々が、不幸なことに、恐ろしいニュースは誇張だとして拒絶するように訓練されているが、実は、その反対方向の誇張であることが多いのが現状である。現在、権力構造にコントロールされた企業メディアによって我々がスプーンで食べさせられているほと

んどすべてのニュースは、実は完全に薄められている。我々が直面しようとしている終末的出来事のすべては、ほとんどの人が理解できないほどに、指数関数的に、恐ろしい危急の事態になりつつある。一般大衆が、次第に明らかになっていく大異変に気づかないもう一つの理由がある。主流メディアの流すネガティブなニュースの終わりには、必ず、“別に心配はいりません、その対処法はわかっています”という注釈がつくのである。これは、誰かがどこかで、この問題に取り組んでいるという間違っただけの情報を与えて、人々を深く眠らせておくための、完全なウソである。そしてもちろん、すべての論文報告には、下に示すビデオのように、人間によって始められたすべての生命への唯一最大の攻撃としての、地球規模の気象操作への言及がない。地球は集団絶滅の「瀬戸際」にあるというより、我々は地球惑星の第6番目の大絶滅事件に、すでにとうの昔から突入しているのである。これは統計学的事実である。気象操作をやめさせる戦いに、明日は勝つぞといった話ではない。今、この絶望的な戦いにすべてが投入されねばならないのである。



国際的な科学者グループによるある画期的な研究が、地球惑星は、6,500 万年前の恐竜が一掃された事件に匹敵する規模の、集団絶滅の瀬戸際にあると結論している。研究者たちは、絶滅の率は、現在、森林破壊や地球的気象変化や、海洋漁業の激減によって、通常の千倍も高くなっていることを発見している。Ben Gruber はこう報告する――

([Planet Ark](#) によるビデオ : [Study says Earth on brink of mass extinction event](#) を見よ)